

「応用複素関数」 期末試験結果 その2

以下の学籍番号の人は、応用複素関数の期末試験で単位取得に十分な点が取れませんでした。

2610130032
2610130057
2610130067
2610130095
2610130131
2610130134
2610130137
2610130144
2610130149
2610130157
2610140046
2610140059
2610140068
2610140070

まず、レポート課題 part 2 の締め切りは 8 月 1 日でまだ締め切りが来ていません。頑張ってください。すでに提出したが内容を改善して提出し直したいという場合も受け付けます。

さらに、8 月 3 日 20 時までに以下の課題のレポートを提出すればその分加点しますので、単位が必要な人はもうひと頑張りして下さい。

提出はメールで katurada@meiji.ac.jp まで。当日 22 時頃までに受け取ったことを返信します。

- 学籍番号 2610130157, 2610140046 以外の人
レポート課題 part 1¹ の 2 番 (ガンマ関数の数値積分) のレポートを提出して下さい。以下に注意すること。
 - 積分区間が $(0, \infty)$ なので、変数変換が授業で使ったサンプル・プログラムとは異なる。必要な変数変換を正しく選び、それを計算する関数を自作すること。
 - 積分 $\Gamma(x)$ の値は、当然変数 $x \in (0, \infty)$ の値による。適当な範囲で自分が数値積分で計算した $\Gamma(x)$ のグラフを描くこと。例えば Mathematica では、`Plot[Gamma[x], {x, 0, 4}]` のようにしてグラフが描けるので、それと比較して、自分の計算に大きな問題がないことを確認した上で提出すること。
 - 数値積分結果の精度も x に強く依存する。 x が 0 に近いとき、大きいとき ($\Gamma(n) = (n-1)!$ なので、 n が 10 くらいでも結構大きい)、中くらいのときで精度を調べる。精度が低い場合は改善できないか検討し、改善できない場合は理由を考察すること。(lgamma(x) で $\log \Gamma(x)$ が計算できる)
 - 既に part 1 のときにこの課題のレポートを提出した人がいるが、その人も提出し直して下さい。
- 学籍番号 2610130157, 2610140046 の人
期末試験の問題の 1 番以外の問題を 2 問解いて提出すること。

¹<http://nalab.mind.meiji.ac.jp/~mk/complex2/report1.pdf>